

幼児教育・生活科における 子ども相互の学びをつなぐ支援の在り方

ーオノマトペ，メタファなどの言葉から学びの姿をとらえてー

保育指導案 2年保育年長（5歳児）

「しゃぼんだまであそぼう」

在籍 男児9名 女児12名 計21名

1 最近の幼児の姿

〈興味・関心・遊びの内容〉

- 戸外での遊びを好む幼児が多く，天気がよい日はほとんどの幼児が戸外に出て遊んでいる。1学期より身体を使った遊びを多く取り入れているため，ブランコや鉄棒，竹馬やフープなど自分なりの目標をもって運動遊びに挑戦する姿が見られるようになった。
- しゃぼんだま遊びは，これまで夏の遊びとして取り入れていたが，活動が単発的であるため一日限りの活動で終わったり，市販の液や決まった用具のみを使ったりしていた。遊びを楽しむ経験はできたものの教師の援助が十分であるとは言えなかった。
しゃぼんの泡で遊んだり，しゃぼんだまの吹き方や飛ばし方などを工夫したりして，しゃぼんだまの大きさやできる数の変化などにも気付かせていきたい。

〈人とのかかわり〉

- ほとんどの幼児が自分の好きな遊びを見つけて遊んでおり，気の合う友達3～4人と毎日一緒に遊ぶ姿が見られる。教師や友達に対して，自分の体験したことや気持ちを話すことができるようになってきた。
- 気の合う友達同士の関係はできているが，子ども相互の学びをつなぐ援助が十分にできていない。遊びの中で幼児一人一人の学びが共有され，価値付け合えるような言葉かけを工夫していきたい。

2 期のねらいと内容（8期 5歳児 9～10月）・・・研究主題に関連した部分のみを抜粋

- 【健康】 ○ 自分で活動を選び，楽しんで取り組もうとする。
 - ・ 友達と競ったり，力を合わせたりして体を十分に動かす。
- 【人間関係】 ○ 友達と共感しながら，力を合わせて遊ぶ楽しさを味わう。
 - ・ 共通の目的をもって，友達と一緒にルールをつくったり，決めたりして遊ぶ。
- 【環境】 ○ 身近な自然と触れ合う中で，よく見たり，考えたり，試したりして，ものの性質や仕組みに関心をもつ。
 - ・ 遊びの目的に応じて，場を工夫したり，必要な物を準備したりする。
- 【言葉】 ○ いろいろな体験を通して感動を共感し，言葉で伝えようとする。
 - ・ 自分の考えを相手にわかるように伝えたり，相手の思っていることに気付いたりする。
- 【表現】 ○ 感動したことを伝え合い，自分なりの表現を楽しむ。
 - ・ 感動したことを絵・文字・言葉などの表現で伝え合ったり，共感したりする。

3 保育計画

段階	幼児の活動	教師の援助	期待できる言葉
つかむ過程 7月 12日 ・ 14日	○ シャボンだまで遊ぼう。 ・ 吹いてみる。 ・ 高いところから飛ばす。	<ul style="list-style-type: none"> シャボンだま遊びのコーナーを5歳児の保育室側に設置する。 ストローと乳酸飲料の空容器を十分に準備する。 石けんをけずり、シャボンだま液をつくる。 教師は、幼児と一緒にシャボンだまをつくったり、幼児がつくったものを認めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ シャボンだまの形状 「きらきら」 「ぬるぬる」 「ぶくぶく」 「たまごみたい」 「ソフトクリームよ」 ◇ 吹き方 「そーっと吹くよ」 「ふーっ、だよ！」
さぐる過程 9月 11日 ・ 12日	○ シャボンだまをもっと楽しもう。 ・ ふくらむ液を工夫する。 ・ 使う道具を選ぶ。 ・ 飛ばし方を工夫する。 ・ 手で作ってみる。 ・ さわってみる。	<ul style="list-style-type: none"> 紙コップやペットボトルなど自由に使うことができるように準備しておく。 吹く方法と風を受けて飛ばす方法とがあることに気付かせる。 幼児がつくったシャボンだまを写真に撮り、友達に紹介したり、保護者に知らせたりする。 シャボンだまに関する絵本を読み聞かせ、次の活動の方向性を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 形や色に気付く 「にじみたい」 「くるくるまわってるよ」 「サイダーのにおいがする」 「これ、ふたご？ゆきだるま」 「ぶくぶく・・・。 ぶどうみたい」 ◇ 友達との比較 「こっちの方がよくふくらむよ」 「もう一度やってみよう」 「ぼくのは、トリプルだ」 (ストローを3本合わせて)
深め広げる過程 9月 13日 日本時	○ 大きなシャボンだまをつくらう。  ○ もっとたくさんつくらう。	<ul style="list-style-type: none"> トレーやバケツなど少し大きめの容器にシャボンだまの液を入れておく。 大きさの違う紙コップや空容器、ナイロン線を巻いた物や筒などを準備しておく。 シャボンだまの色にも目を向けさせる。 友達に伝えようとしたり、教えてあげようとする場面を認め、他の幼児も誘うことができるように言葉をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 大きなシャボンだま 「びよーん」 「にじみたい」 「こっちの方が、大きいのできるかも？」 ◇ たくさんシャボンだま 「にじみたい」 「くるくるまわってる」 「あわぶくぶく」 「きらきらしてる」 「いっぱい、できたね」

4 週案（今週のねらい、内容、幼児の活動など）

5歳児 8期 9月 第2週（9月11日～9月15日）			
幼児の姿	2学期を迎え、久しぶりの再会を喜び合う姿が見られた。夏休みの間に挑戦した竹馬やくるくるスキップなどを見せ合っている。運動会に向けても期待が膨らみ、かけっこや体操などをすすんでしようとしていた。暑さを緩和するために、簡易テントを出すと、1学期にしたことを思い出し「先生、またしゃぼんだましたい」の声が聞かれた。繰り返し遊ぶことのできる場を設定したい。	物的環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ しゃぼんだまの液を準備する。 ○ しゃぼんだまの道具を準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙コップやナイロン線を準備する。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外で友達と一緒にしゃぼんだま遊びをすることを楽しむ。 ○ 輪になっているいろいろな道具でしゃぼんだまができることを知り、自分なりに吹き方や飛ばし方を工夫する。 ○ 自分が気付いたことを言葉を使って友達に伝えようとする。 	援助と配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具を自分で選んだりつくったりできるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ つくる過程を大切に、幼児の発する言葉に共感したり、友達の気付きに共感することができるように助言したりする。 ○ いろいろな方法でしゃぼんだまができることに気付くようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手や指でもできることを知らせる。 ・ 上手に吹いてしゃぼんだまをついている子を友達にも紹介する。 ・ しゃぼん液を飲まないように配慮し、使い方や片付けの仕方を指導しておく。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ せっけん液と水とを混ぜ合わせたり、泡をつくったりして形や色に気付く。 ・ しゃぼんだま遊びをするための道具や吹き方などを工夫する。 ・ 自分の気付きを自分なりの言葉で表現したり、友達の気付きに共感したりする。 		
日曜	11日（月）	12日（火）	13日（水）
行事			検証授業
幼児の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹馬乗り ・ くるくるスキップ ・ 色水遊び ・ ブランコ ・ トロッコ ・ しゃぼんだま遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹馬乗り ・ くるくるスキップ ・ 色水遊び ・ ブランコ ・ トロッコ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">運動会全体練習②</div> 行進、体操、玉入れ <ul style="list-style-type: none"> ・ しゃぼんだま遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">しゃぼんだま遊び</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストローで吹く ・ 大きなしゃぼんだまをつくる ・ つかまえる ・ 数を増やす ・ 友達と一緒に ・ 色水遊び（ヨウシュヤマゴボウ） ・ 竹馬乗り
絵本		しゃぼんだまのふしぎ (かがくらんど)	せっけんつけて ぶくぶく ふわー しゃぼんだまとあそぼう (かがくのとも)
歌	しゃぼんだま	しゃぼんだま	しゃぼんだま
反省	<ul style="list-style-type: none"> ・ テントを準備したことから「先生、しゃぼんだま？したい。」と要求してくる。友達とストローの先にしゃぼんだまを付け合う姿が見られた。形や数にも興味をもち始めているようだ。(年中児も泡をぶくぶくさせていた。) ・ 吹く活動のため活動時に言葉で表現できない子もいる。子どもの言葉を聞き逃さずに認めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師がしゃぼんだまの液が入ったバケツに手を入れ、手でしゃぼんだまをつくっているとT男とY子が興味をもってやってくる。しばらくすると昨日したようにストローを要求してきた。自分のしゃぼんだまを正面からしか見ることができず、比較的強く吹かなければならなかったのかかもしれない。明日は、他の幼児にも経験させたい。(色にも注目させる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しくナイロン線とトレー、透明のプラスチックコップを準備した。(自分で穴を大きくしたり、セロハンテープで留めたりできる場を準備しておく。) ・ しゃぼんだまを膨らませるために準備したカップ類だったが、しゃぼん液をたくさん集めて、あわをぶくぶくつくことに興味をもったようだ。 ・ 道具を7種類準備したが、同じ道具やつくり方を長い時間楽しむ幼児が多かった。興味をもった物だけを精選し、明日の準備をしたい。

5 本時の展開 9月13日(水)

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外で友達と一緒にしゃぼんだま遊びをすることを楽しむ。 ○ 輪になっているいろいろな道具でしゃぼんだまができることを知る。 ○ 自分が気付いたことを言葉を使って友達に伝えようとする。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ せっけん液と水とを混ぜ合わせたり、泡をつくったりして形や色に気付く。 ・ しゃぼんだま遊びをするための道具や吹き方などを工夫し、遊びを繰り返し楽しむ。 ・ 自分の気付きを自分なりの言葉で表現したり、友達の気付きに共感したりする。

時間	1日の生活の流れ	予想される幼児の活動(教師の願い)	教師の援助
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登園する。 ・ あいさつをする。 ・ 出席シールを貼る。 ・ 荷物の整理をする。 	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><u>しゃぼんだまで遊ぶ</u>：しゃぼんだま液をつくったり、混ぜ合わせたりして、形や色に着目し遊びを楽しむ。(自分からかかわろうとする姿を認めていきたい。)</p> </div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><u>しゃぼんだまをつくる道具を工夫する</u>：大きさの違う紙コップやナイロン線を巻いた輪など使って遊ぶことを楽しむ。(できたしゃぼんだまの大きさや形の違いに気付いてほしい。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳児のテラス前にしゃぼんだまのコーナーをつくる。(テーブルを出す。) ・ 自分で作りながら工夫できるように共用のハサミ、セロハンテープなどを準備しておく。 ・ 友達が発した言葉に共感している幼児の姿を認める。 「本当にきらきらしてるよ。きれいだね。」 ・ 友達のしゃぼんだまにも気付くよう言葉をかける。 「○○さんの見せてあげて？すごいのがつくってたよ。」
9:15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする ・ しゃぼんだまで遊ぶ。 ・ しゃぼんだまをつくる道具を工夫する。 (その他) ・ 色水遊びをする。 ・ 竹馬乗りをする。 		
10:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片付ける。 ・ 手洗い、排泄をすませる。 ○ 集まりをする。 ・ 絵本「せっけんつけてぶくぶくぷわー」「しゃぼんだまとあそぼう」を聞く。 ・ 降園準備をする。 	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><u>色水遊びをする</u>：毎朝、ヤマゴボウの実の色付きを確認しながら色水をつくっている姿を認めていきたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達がつくったしゃぼんだまを感性的な言葉を使って価値付けている幼児の姿を認めていく。 「よく気が付いたね。」 「先生もふわふわのつくってみよう。」
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 降園する。 	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><u>竹馬乗りをする</u>：スタートの巧技台は、要求に応じて準備する。(あと少しで乗れるようになる幼児を温かく見守っていきたい。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師も一緒にしゃぼんだまの大きさや数、色に驚きを示し、共感すると共に、できるだけ具体的に言葉かけができるようにする。 「わあ、すごい。たくさん泡ができたね。」

